

令和5年度 認定こども園すみれ萑崎保育園 園の評価

評価基準

a・・・十分できている

b・・・できているが十分ではない

c・・・あまりできていない

d・・・ほとんどできていない 改善を要する

	評価項目	総合評価	個人の意見・改善点
保育の理念・基本方針	園の保育理念や保育目標をしっかりと理解できていますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育でいっぱいになってしまい、保育理念や保育目標を思い出したり、それを踏まえての保育を常にしたりすることは難しかった。 ・子どもの気持ちを大切にしながら、保育していきたい。
	子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てるように配慮していますか。	b	
保育の内容(健康)	子どもの発育や状態、家庭での食事、睡眠などの状態について保護者から情報を得るようにしていますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にもっと積極的に声を掛けて、コミュニケーションを図るようにしたい。 ・声掛けしすぎてしまうことや、時間に追われている時など、子どもの行動を待てず手伝ってしまうことがある。子どもの「やりたい」という気持ちを大切に、見守ることを心掛けたい。 ・年間を通して、運動用具を使った遊びが少なかった。雨天時に限らず、子どもの発達・要求に合わせて、もっと頻繁に行えばよかった。
	登園時、子どもの健康観察(機嫌、顔色など)を行っていますか。	a	
	保育中、子どもの様子(機嫌、食欲など)の把握をしていますか。	a	
	一人ひとりの生理的欲求(食欲や睡眠)が満たされるよう配慮していますか。	a	
	子どもが伸び伸びとからだを動かせるよう、時間、場所、遊びを確保していますか。	a	
	外遊びや散歩など、戸外で遊ぶ機会を多く取り入れていますか。	a	
	生活面において、子どもが自分でできることは自分でしようとする意欲や姿勢を十分に見守っていますか。	a	
保育の内容(環境)	一人ひとりの子どもが伸び伸びと遊べるよう見守っていますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば子どもたちが、五感や全身を使って活動を楽しめるのか考えていきたい。 ・子どもの「あそびたい」「やりたい」気持ちを大切に、子ども主体の保育を心掛けたい。 ・同じような遊びや活動が多くなってしまった。もっと子どもたちが、ワクワクできるような活動を取り入れればよか
	いろいろな遊びの中で、全身を使って体を動かすことができるよう配慮していますか。	b	
	戸外でのいろいろな遊びを意欲的に楽しむことができる機会を設けていますか。	a	

保育の内容(環境)	子どもが全身を介して直接自然と触れ合う体験をする機会を設けていますか。	b	<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊びを取り入れようとはしているが、思い切り楽しめる時間をもうけることは難しい。集団で活動することにこだわらず、個々のペースで楽しめる時間を作ってあげたい。 ・クッキング保育だけでなく、毎日給食で食べる季節の食材などに触れる機会を増やしたい。
	子どもがいろいろな物に触れながらその性質や仕組みに興味を持てるよう配慮していますか。	b	
	子どもの発達に適した玩具や遊具を用意し、好きな遊びができるようにしていますか。	b	
保育の内容(人間関係)	園生活の中で、子どもが充実感を味わえるような体験を取り入れていますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は常に子どもたちの手本であることを意識して、行動・言動することを心掛けたい。 ・ケンカが起きたときに、どうすれば仲直りできるのか子どもたちに問いかけ、子どもたち自身が考える力を育て、大切にしたい。 ・トラブルの際、手が出てしまう子が多く、見守るよりも間に入ってしまうことのほうが多くあった。
	子どもが保育教諭や友だちと共に過ごすことを楽しめるような配慮をしていますか。	a	
	保育教諭の言動の一つ一つを子どもはモデルとして学んでいることを知っていますか。	b	
	つまずきや葛藤、けんかなどの経験が成長に欠かせないものにとらえ適切に対応していますか。	b	
	子どもが思ったことを友だちに伝え、相手の思っていることにも気づくように援助していますか。	b	
保育の内容(言葉)	子どもの発達や理解力に合わせた言葉を使うよう心がけていますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや、言葉の掛け方にも気を付けるよう心がけたが、感情的になってしまうことがあり、反省がある。常に冷静で、穏やかに保育するように努めた。 ・自分が思わず発した言葉を、すぐに子どもが真似していることがあり、ハッとしました。日常の言葉の使い方も意識しなければと感じた。 ・読み聞かせの前に手遊びをもっと取り
	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉がけをするよう心がけていますか。	b	
	子どもの気持ちに寄り添いながら疑問や質問に答えたり、一緒に考えるよう心がけていますか。	a	

保育の内容(言葉)	正しい言葉づかいや声の大きさに配慮していますか。	b	入れたり、声の大きさや抑揚をつけて読んだりすることで、子どもたちが楽しみながら話を聞けるような工夫をしたい。
	子どもが見たり考えたりしたことなどを自分なりに言葉で表現しようとするよう援助していますか。	a	
	絵本の読み聞かせなどを通して、言葉への興味や関心を育てるよう心がけていますか。	a	
保育の内容(表現)	子どもが歌ったりリズムに合わせて体を動かしたりして、表現の楽しさに気付くよう配慮していますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌をたくさん歌い、その歌の意味も伝えることで、子どもたちの興味や関心を広げたい。 ・自由遊びの中でも、表現の楽しさや音、手触り、香りなど共感し、そういった感覚を大切にしたいと思う。 ・大人が考えたクッキングをするだけでなく、子どもたちの遊びの中で流行していることなどからも、食育につなげていきたい。
	子どもの表現を受け止め、共感し、表現することの楽しさを味わえるよう配慮していますか。	a	
	様々な音、色、形、手触り、動き、香りに気付いたり、心地よさを感じる機会を作っていますか。	b	
	水、砂、土、紙など自然の素材に触れて楽しむ機会を取り入れるよう心がけていますか。	a	
	感じたことや考えたことを自由に表現できる機会を設けていますか。	a	
保育の内容(乳児保育)	一人ひとりの乳児の発育や発達の状態をよく観察したうえで、常に体の状態を細かく観察していますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と家庭、給食間の連携がよく、離乳食が進めやすかった。来年度にも生かしたい。 ・離乳食の進み具合は一人ひとり違う。それぞれに合った食事形態にできるよう、これからも考えていきたい。
	たて抱き、腹這いなど子どもが様々な姿勢をとれるようにしていますか。	a	
	乳児を寝かせる場合には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い、記録をしていますか。	a	
	外気に触れたり戸外遊びを行う機会を設けていますか。	a	

	離乳食については、家庭と連携を取りながら一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っていますか。	a	
保育の内容(1・2歳児)	基本的な生活習慣の習得については、一人ひとりの子どもの発達過程に応じて行っていますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・個々とゆったり関わることができ、各々の成長に合わせた関わりをもつことができた。来年度も同じような関わりをしたい。 ・身の回りのことなど、自分でしようとする意欲を大切にしたいが、時間や気持ちに余裕がなく、手伝ってしまっている。子どもたちのやってみようとする気持ちを大切に関わりたい。 ・子ども同士を比べるのではなく、一人ひとりの子どもの成長過程を大切に、自分のペースで成長できるように関わりを心掛ける。
	子どもの意欲や自分でやりたいという気持ちを尊重しながら、適切な援助を行っていますか。	b	
	衣服の着脱にあたって、丁寧にやり方を教え、自分でしようとする気持ちを尊重していますか。	a	
	ゆったりとした気持ちで自分から便器に座ったり排泄したりできるよう配慮していますか。	a	
	楽しい雰囲気の中で自分で食事をしようとする気持ちを大切にしていますか。	a	
保育の内容(3歳以上児)	生活に必要な習慣や態度を身につけ、適切な行動を選択できるよう配慮していますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のルールや決まり、習慣や態度など日々伝えるよう心掛けている。出来る子もいれば、そうでない子もいて、保育の難しさを感じている。 ・自由すぎるのか、もう少しルールがあったほうがいいのかなど、日々悩むことが多いが、悩みながらもいい方向、良い保育を見つけていきたい。
	決まりがあることの大切に気づき、自ら判断して行動できるよう配慮していますか。	a	
	感じたことや想像したことなどを表現できるよう、様々な環境の設定に留意していますか。	a	
	保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意していますか。	a	
	園の保育課程を理解していますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、月案・週案を立案し、それらに沿った保育を行っている。しかし、子どもの興味や関心に合わせ計画から多少外れることもある。計画は計画として心にとめながら、その時々
	指導計画を作成する際、長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成していますか。	a	

保育の反省及び評価	一人ひとりの子どもの状態を踏まえ、個別적으로作成していますか。 (0~2歳児)	a	<p>の子どもに合わせた柔軟な保育をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもの状態や様子をしっかりと把握していないと、児童票など記入できないので、しっかりと個々に目を配るように努めている。 保育の振り返りを毎日し、振り返り、反省・評価ができるようにしているが、できないまま流れてしまうことも多く、反省している。
	指導計画に子どもの発達過程などを見通した具体的な「ねらい」と「内容」を設定していますか。	a	
	子どもの発達、興味、関心に基づいて指導計画を見直し、次の指導計画の作成に活かしていますか。	b	
	障がいがある子どもがいる場合、その子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立てていますか。	a	
	自身の保育を振り返り、反省や評価を行い、次の指導計画の作成に活かしていますか。	b	
健康及び安全	子どもの日々の健康状態を把握し、一人ひとりの保育に活かしていますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> 玩具や用具の点検を定期的に行い、破損に気づいたら、子どもにどのような危険が及ぶか考え対処したい。 感染症についての知識に自信のないものもあり、しっかりと学んで知識として身につけたいと思う。 細かな場所において、掃除の行き届いていない所があった。気づけるようにすること、気づいたらすぐ行うことを意識したい。 保健衛生委員会に給食職員が入っていることで、連携が取れている。園全体で保健衛生について勉強する機会がもっとあるといい。 年度途中の採用だったため、受動的な対応になりがちだったが、看護師としての専門性を生かし、能動的な関わりができるように意識したい。
	感染症に対する知識を持ち、その症状や流行時期などを把握していますか。	b	
	保育に従事する者として、服装や身支度に配慮し、自らの健康と清潔を常に心がけていますか。	a	
	保育室、トイレなどを清掃し、常に清潔を保つようにしていますか。	a	
	子どもが使用する玩具などを消毒し、常に清潔を保つようにしていますか。	b	
	子どもが使用する玩具などを消毒し、常に清潔を保つようにしていますか。	b	
	おむつの交換や嘔吐物などの処理の際、手洗いや使い捨て手袋などの使用など衛生に配慮していますか。	a	
	園内の整備、玩具、用具など定期的に確認し、破損の有無を確認していますか。	b	

健康及び安全	日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険などを定期的に点検していますか。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・公園までの道のりや危険箇所など、把握しきれていない所があるので、視野を広げ意識して行動したい。 ・子どもが苦手とするものを、食べられるようになってほしいという気持ちはあるが、無理強いほしないように、楽しく食べられるような働きかけを心掛けている。
	災害が発生した場合の対応方法を理解していますか。	b	
	食事が保育の内容の一環であり、食育として位置づけられていることを理解していますか。	a	
	子どもが落ち着いて食事やおやつを楽しめるよう配慮していますか。	a	
	子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしないよう配慮していますか。	a	
	食事の食べ具合など、必要に応じて保護者に伝えていきますか。	a	
保護者支援	送迎の際の会話や連絡帳を通して、保育の内容や子どもの様子などを保護者に伝えていきますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳に子どもの様子を記載する際には、園での様子を詳しく知ってもらうために、丁寧に書くようにしている。 ・子どもの様子を伝えるようにしているが、関係づくりの難しい保護者もいる。信頼関係を大切に、丁寧な関わりを心掛けたい。
	保護者が子育ての悩みなどを安心して話せる存在となれるよう努めていますか。	b	
	保護者の子どもに対する虐待の早期発見に努めていますか。	b	
職員の資質向上	自身の人間性や倫理観が子どもに影響を与えることを自覚していますか。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し積極的に研修に参加し、保育に生かせればよかった。自分のために、子どもたちのために、日々学びを忘れずにいたい。 ・課題を見つけて終わりではなく、その課題を達成するにはどうすればいいのかをしっかりと考えたい。
	園内外における研修に目的を持って積極的に参加していますか。	a	
	自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいますか。	b	

○各クラスの振り返り

<p>ひよこ組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイハイから歩行、離乳食から食具を持って自分で食べる。一定時間ぐっすり眠る。喃語から意味のある言葉を話すようになる等、成長の過程を日々見ることができ、その姿が愛しく、感動することができた。 ・体調の変化が著しかったが、看護師さんがいることで安心でき、職員間で連携して対応できた。 ・室内遊びの際、既存の玩具の見直しや新しい玩具を取り入れるなど、遊びの工夫が足りなかった。 ・後半は、動きが活発になり、部屋が狭く感じるほどだったので、部屋の模様替えをしたり使い方を考えたりすればよかった。 <p>〈看護師より〉</p> <p>月齢だけでなく、発達にもかなりの個人差がある中で、個々にあった関わりができていたように感じた。発達に個人差が大きかった分、成長発達が早い子どもたちが満足できる活動を、人手があればもっとできたのではないかと感じた。子どもたちの些細なことや、気になったことなど、保育者間でのコミュニケーションがよく取れていたため、情報共有がスムーズだった。</p>
<p>うさぎ組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢差のあるクラスだったため、個々の姿や成長にじっくりと目を向けながら、それぞれのペースで過ごせるよう環境や遊びなどを工夫した。 ・その季節や年齢ならではの遊びをたくさん取り入れ、それぞれの遊びにふれて感じた思いや表現を受け止め楽しむことができた。 ・日々の成長や姿、家庭の様子などについて、職員間で共有し伝えあいながら子どもたちと関わることもできた。 ・日々の姿を保護者と伝えあい、連携しながら成長を見守れるよう心掛けたが、保護者の悩みや不安などについてももっと話し合う場を設けていけばよかった。 ・未満児クラス同士では、遊びや生活の中で一緒に過ごせたが、幼児クラスとの交流があまりできなかった。触れ合う機会を作れたらよかった。 ・排泄や着脱など、一人ひとりのペースに合わせて援助してきたが、保育教諭間で関わり方に偏りがあった。声掛けの仕方や進め方について、思いを統一することができるように十分に話し合えればよかった。
<p>りす組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進級による環境の変化で登園時、泣く子が多かった。持ち上がりの保育教諭がいなかったため、子どもたちの不安に対してどのように関わればよいか話し合った。徐々に生活に慣れ保育教諭との信頼関係もでき、自分の思いを友だちや保育教諭に伝えたり、友だちと好きな遊びを楽しんだりする姿が見られるようになった。 ・自分の思いをうまく言葉にできず、トラブルになることがあった。子ども同士の関わりを見守り、状況に応じて保育教諭が間に入り、子どもたちの気持ちを受容、代弁することを意識して関わった。 ・身の回りのことに関して、自分でやりたい気持ちが少しずつ出てきて、でもうまくできないという子どもたちの葛藤が見られた、難しいところは保育教諭が援助することで、“自分ででき

りす組	<p>た”という達成感を味わえるように関わった。自分のことが少しずつできるようになると視野が広がり、友だちの着替えを手伝ったり、泣いているお友達の頭を撫でてあげたり、子ども同士の温かい関わりが見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヤイヤ期で、子どもたちから様々な主張があった。一人ひとりと丁寧に向き合い、個々のペースを大切に、その子に合った関わりを見つけることで、子どもたちも心を開き、自分の気持ちに折り合いをつけながら行動する姿が見られた。 ・環境構成にも配慮し、子どもたちの動線やどのようにすれば過ごしやすい環境になるか考えながら、何度か模様替えを行った。コーナーを設置することで、一つ一つの遊びにじっくり集中できるようにした。友だち同士の関わりが増えて、楽しそうに遊ぶ姿が増えた。
-----	---

ぴんくグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・進級当初は慣れない環境に戸惑ったり、落ち着かなかったりする様子が見られた。職員間で声を掛け合いながら一人ひとりの思いに寄り添うことで、安心して生活する姿が見られるようになった。 ・身の回りのことに意欲的に取り組み、丁寧に言う子がいる一方で、なかなか気持ちが向かない子がいるなど個人差が大きかった。一人ひとりに合わせた関わりを心掛け、自信や意欲につながられるようにした。 ・年少児は確認しながら一緒に行うことで、基本的な生活習慣が身につくように配慮した。毎日の繰り返しの中で、少しずつできることが増え、自信をもち取り組む姿が増えていった。 ・玩具の取り合いや生活の中での思いのすれ違いにより、トラブルが多かった。場面に合った言葉を知らせたり、相手の思いを聞けるよう傍で見守ったりしながら、子ども同士のやり取りを大切に。自分の思いを曲げることが難しい子も、少しずつ友だちの思いを受け入れられるようになり、考えを提案したり、子ども同士で解決したり、誤ったりなど、社会性を育むことができた。 ・子どもたちの思いを聞き活動に取り入れるなど、子どもたちの思いを大切にしながら保育を進めた。子どもたちから、同じような活動を期待する声が多く、一年を通して遊びがマンネリ化してしまっように思う。季節ならではの遊びを取り入れたり、遊びのバリエーションを増やしたりしていけばよかった。 ・年度初めは異年齢の関わりが少なかったが、年中・年長児の遊びに年少児が興味をもつことで関わりが見られるようになっていった。年長児の中には遊びのルールを優しく教えてあげたりする姿も見られ、その姿を十分に認めていくことで異年齢児の関わりを深めることができた。
---------	---

ぐりーんグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での生活を喜び、年下の友だちを思いやる、年上の友だちを真似てみるなど互いにいい影響があり、成長した子がいた。 ・異年齢の生活よりも同年齢との関わりを好む子もいたが、トラブルにつながってしまうことも多々あった。 ・年間を通して異年齢での生活が主で保育してきたが、秋頃から年長が就学に向けて同年齢で過ごす時間を増やしていたことで、年少、年中組の子どもたちがクラス移動など環境の変化に不安や戸惑いを感じる子もおり、全体的に落ち着かなくなってしまった。年度の始めから学年での活動や生活をもう少し取り入れ増やしていけば子どもたちもスムーズに戸惑うことなく生
----------	---

ぐりーんグループ	<p>活きたのではないかと感じた。しかし、中には年長児がいないことで、年中児が年上だと自覚して積極的に行動する姿の子も見られたので個々の成長が感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児で「さつまいも」を植え、そこから焼き芋やツルでのクリスマスリース作りなど、自然と関わり色々な方法で楽しめるようにした。 ・同年齢と異年齢での制作活動を行ったが、発達段階の違いもあり、制作面では同年齢で行うほうがスムーズに行え、子どもたちも負担なく行えるのではないかと感じた。 ・話の聞き方、身の回りのこと、自分のものの管理、保育園のものを大切に使うなど、生活する上でのルールや約束事などを引き続き丁寧に知らせていく必要性があると感じた。
ぶるーグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、思いを伝えたり、友だちや保育教諭が話していることを聞いたりして、自分なりに考えられるように声を掛けた。年齢に応じて声掛けや進め方を工夫し、自分たちで活動を進めていく楽しさを味わえるようにすることができた。 ・一年間異年齢で過ごしたことで、始めは自分中心だったことが年齢にかかわらず、周りに知らせたり、優しく関わったりする姿に変わっていった。また、同年齢ではお互いに助け合い、刺激を受けながら過ごす様子が見られた。

給食室	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食やアレルギー除去食など、個別に対応が必要な食事については、保護者と担任、給食職員が必ず面談を行い、共有するようになった。 ・給食の時間はなるべく子どもたちの様子を見に行き、残食量や食事の雰囲気などを、時間があまる限り見るようにした。 ・クッキングは、食育や体験にこだわらず、子どもたちが興味のあるものに注目し、楽しむクッキングを目指したい。
-----	--

○今後の課題と目標

<ul style="list-style-type: none"> ・生活をする上でのルールや約束事など、意識せず過ごしている子どもたちが多い。ある程度の決まりの中で、落ち着いた生活を送ることができるようルールや約束事など丁寧に知らせ関わりたい。 ・異年齢、年齢別での生活の仕方について、年度の始めから同年齢での活動や生活を増やしていけば、年長児が就学に向けて同年齢で過ごすようになって、年少児が戸惑うことなく生活できるのではないかと。 ・季節ならではの遊びを取り入れるなど、遊びのバリエーションを増やしたい。子どもたちの意見を取り入れることに重点を置きすぎてしまった。未満児クラスからも、遊びの工夫が足りなかったとの反省があった。 ・その時々での遊びの様子や動線を考え、環境構成を変更したクラスとそうでないクラスがあった。子どもたちの様子に合わせて、過ごしやすいような工夫をしたい。 ・日々の姿や一人ひとりの成長など保護者に伝えたり、家庭の様子を聞き連携を取ったりするように努めた。しかし、保護者の悩みや不安などについて話し合えなかった。もっと悩みや不安を聞くような
--

場を設けたい。

- ・未満児クラス同士の関わりは持てたが、幼児クラスとの交流ができなかった。生活のなかで自然と関わりあえるように意識したい。